

財務書類報告書

令和3年3月

青森県横浜町

目次

1. 統一的な基準について

| | |
|-----------------|---|
| (1)はじめに | 1 |
| (2)財務書類作成の基本的前提 | 1 |
| (3)財務書類の体系 | 2 |

2. 一般会計等財務書類

| | |
|-------------|----|
| (1)貸借対照表 | 3 |
| (2)行政コスト計算書 | 8 |
| (3)純資産変動計算書 | 10 |
| (4)資金収支計算書 | 12 |

3. 全体会計及び連結会計財務書類

| | |
|-------------|----|
| (1)貸借対照表 | 13 |
| (2)行政コスト計算書 | 15 |
| (3)純資産変動計算書 | 17 |
| (4)資金収支計算書 | 18 |

4. 財務書類の活用

| | |
|-----------------|----|
| (1)財務書類を用いた分析 | 19 |
| (2)固定資産台帳を用いた分析 | 21 |

【資料】

- 一般会計等財務4表
- 全体会計財務4表
- 連結会計財務4表

1. 統一的な基準について

(1) はじめに

平成 27 年 1 月 23 日に総務省より公表された「統一的な基準による地方公会計の整備促進について」(総務大臣通達)により、すべての地方公共団体は、固定資産台帳の整備と複式簿記による発生主義会計を導入した財務書類の作成をすることとなりました。

横浜町では、平成 22 年度決算より「総務省方式改訂モデル」で財務書類を作成していましたが、平成 28 年度決算から統一的な基準による財務書類を作成することとしました。

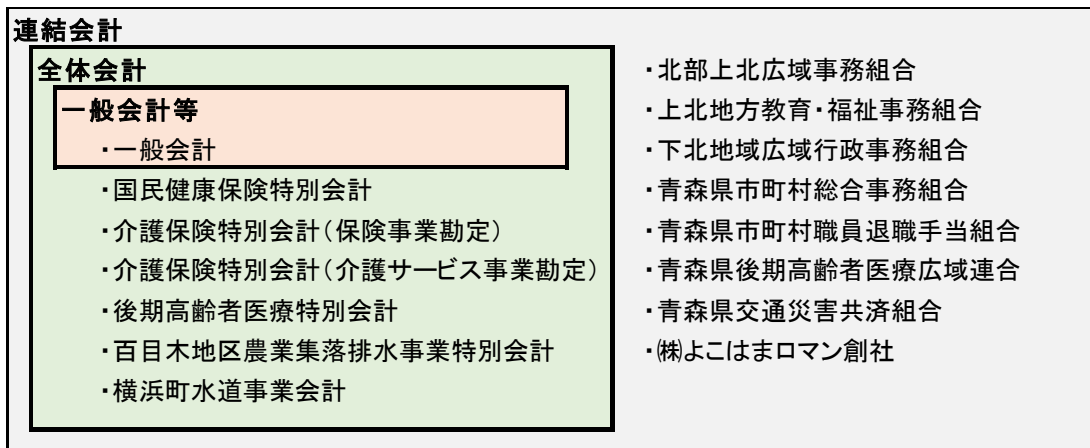
(2) 財務書類作成の基本的前提

① 財務書類の作成基礎

貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書及び資金収支計算書は平成 27 年 1 月 23 日に総務省より公表され、令和元年 8 月に改訂された「統一的な基準による地方公会計マニュアル」により作成しています。

② 対象会計範囲

対象となる会計及び連結団体は下記のとおりです。



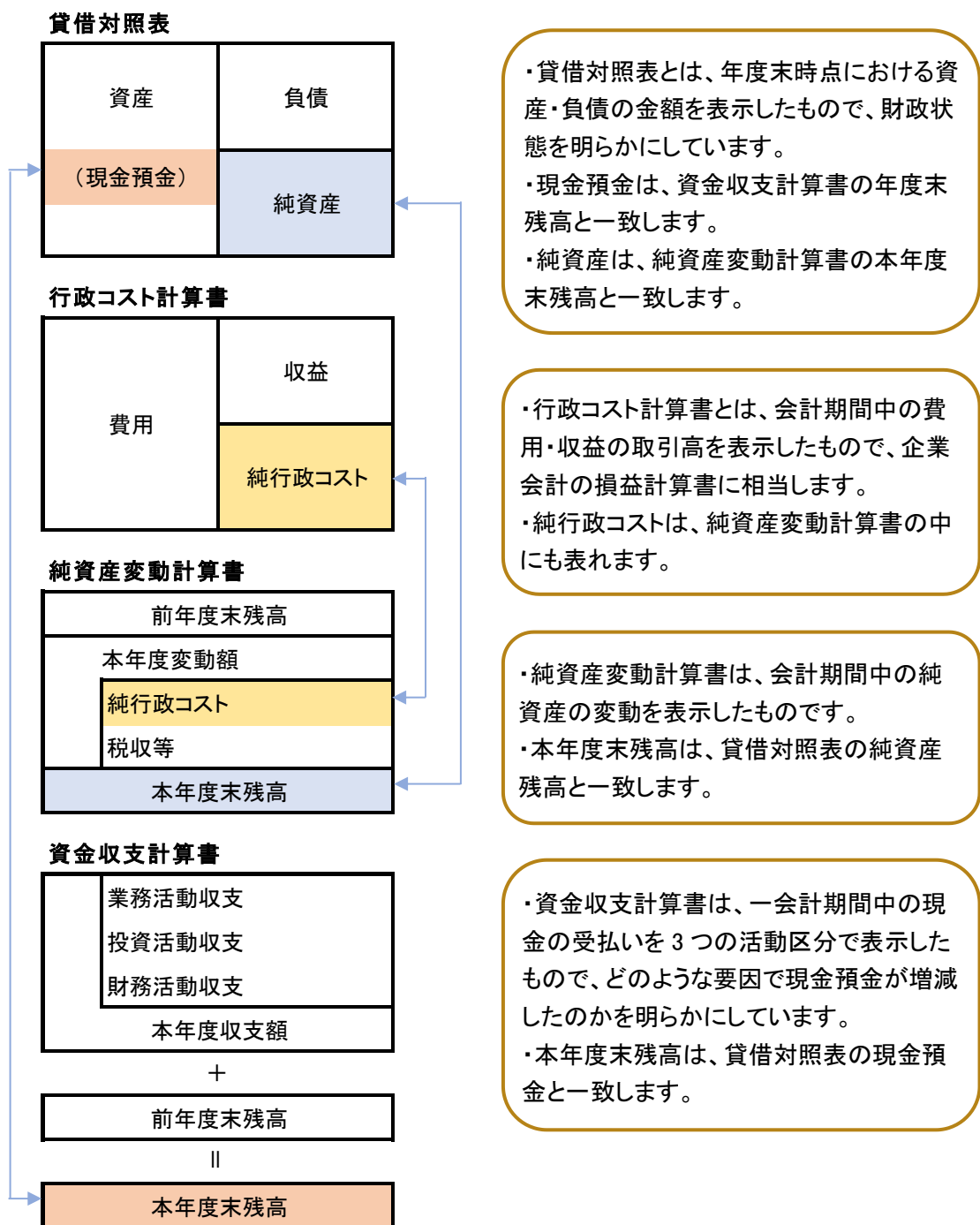
③ 対象年度

対象年度は令和元年度とし、令和 2 年 3 月 31 日を基準日としています。

④ 表示単位

金額は百万円単位(又は千円単位)で表示しています。表示単位未満を四捨五入しているため、内訳と合計が一致しない場合があります。また、単位未満の計数があるときは「0」を表示し、計数がないときは「-」を表示しています。

(3) 財務書類の体系



2. 一般会計等財務書類

(1) 貸借対照表

① 概要

一般会計等貸借対照表 (令和2年3月31日現在 単位:百万円)

| 【資産の部】 | | 【負債の部】 | |
|-------------|---------------|-----------------|---------------|
| 固定資産 | 11,419 | 固定負債 | 3,965 |
| 有形固定資産 | 10,119 | 地方債 | 3,427 |
| 無形固定資産 | - | 退職手当引当金 | 538 |
| 投資その他の資産 | 1,300 | その他 | - |
| 流動資産 | 1,518 | 流動負債 | 361 |
| 現金預金 | 67 | 1年内償還予定地方債 | 319 |
| 基金 | 1,444 | 賞与等引当金 | 38 |
| 未収金等 | 7 | その他 | 4 |
| | | 負債合計 | 4,326 |
| | | 純資産合計 | 8,611 |
| 資産合計 | 12,937 | 負債・純資産合計 | 12,937 |

町が保有する土地や建物など

実際は物として存在しない公共資産

将来返済しなければならない町の債務

将来町が支払う職員の退職金見込額

現在までの世代が負担した金額
返済の必要がない正味の資産

令和元年度決算では、資産合計が 12,937 百万円、負債合計が 4,326 百万円、純資産合計が 8,611 百万円となりました。

資産の部について、固定資産が 11,419 百万円となり、このうち土地や建物等で構成される有形固定資産が 10,119 百万円で大半を占めています。また、公営企業や第三セクター等に対する出資金・出捐金、基金等から構成される投資その他の資産が 1,300 百万円となりました。

流動資産は 1,518 百万円で、現金預金、財政調整基金・減債基金、未収金等で構成されています。

負債の部では、借入金である地方債合計(地方債と1年内償還予定地方債)が 3,746 百万円となり、これらは将来返済していく必要があります。また、退職手当引当金と賞与等引当金は、職員に対して将来見込まれる費用を現時点で見積もったもので、それぞれ 538 百万円、38 百万円となりました。

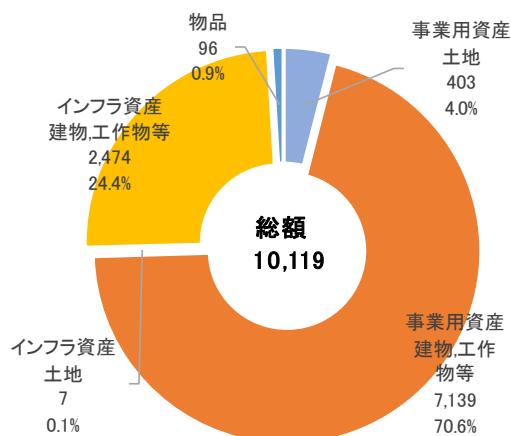
② 有形固定資産

貸借対照表の資産の中で最も金額が大きく、かつ、自治体の政策方針が反映されやすいのが有形固定資産です。以下に科目別と行政目的別の内訳を表示します。

有形固定資産の科目別内訳

(単位:百万円)

| 勘定科目 | 金額 |
|---------|--------|
| 事業用資産 | 7,542 |
| 土地 | 403 |
| 建物、工作物等 | 7,139 |
| インフラ資産 | 2,481 |
| 土地 | 7 |
| 建物、工作物等 | 2,474 |
| 物品 | 96 |
| 合計 | 10,119 |



有形固定資産は、事業用資産、インフラ資産及び物品の3つに区分されます。

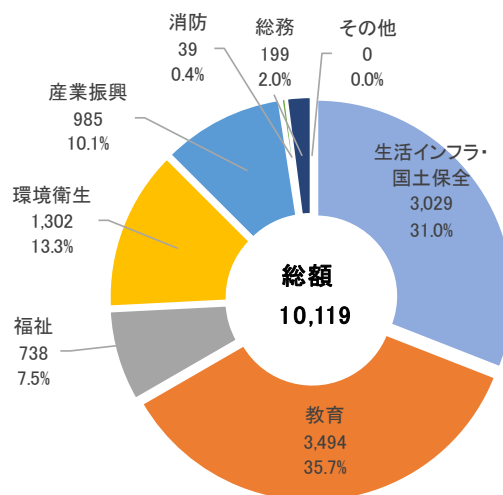
事業用資産とは、庁舎、小中学校、公民館、観光施設等のことをいい、インフラ資産とは、橋梁、道路、公園等のことをいいます。

科目別の内訳をみると、事業用資産の建物、工作物等が7,139百万円と最も大きくなりました。

有形固定資産の行政目的別内訳

(単位:百万円)

| 行政目的別名称 | 金額 |
|-------------|--------|
| 生活インフラ・国土保全 | 3,029 |
| 教育 | 3,494 |
| 福祉 | 738 |
| 環境衛生 | 1,302 |
| 産業振興 | 985 |
| 消防 | 39 |
| 総務 | 199 |
| その他 | 0 |
| 合計 | 10,119 |



有形固定資産を行政目的別にみると、小中学校等の教育が3,494百万円と最も大きく、次いで、橋梁、道路等の生活インフラ・国土保全が3,029百万円となりました。

③ 経年比較

貸借対照表の経年比較を下記に表示します。

一般会計等貸借対照表の経年比較 (単位:百万円)

| | 令和元年度 | 平成30年度 | 増減 |
|-----------------|---------------|---------------|------------|
| 固定資産 | 11,419 | 10,554 | 865 |
| 有形固定資産 | 10,119 | 8,975 | 1,144 |
| 無形固定資産 | - | - | - |
| 投資その他の資産 | 1,300 | 1,579 | △ 279 |
| 流動資産 | 1,518 | 1,581 | △ 64 |
| 現金預金 | 67 | 75 | △ 8 |
| 基金 | 1,444 | 1,498 | △ 54 |
| 未収金等 | 7 | 8 | △ 1 |
| 資産合計 | 12,937 | 12,135 | 801 |
| 固定負債 | 3,965 | 3,798 | 167 |
| 地方債 | 3,427 | 3,239 | 188 |
| 退職手当引当金 | 538 | 559 | △ 21 |
| その他 | - | - | - |
| 流動負債 | 361 | 351 | 10 |
| 1年内償還予定地方債 | 319 | 313 | 6 |
| 賞与等引当金 | 38 | 34 | 4 |
| その他 | 4 | 4 | 0 |
| 負債合計 | 4,326 | 4,148 | 178 |
| 純資産合計 | 8,611 | 7,987 | 624 |
| 負債・純資産合計 | 12,937 | 12,135 | 801 |

資産の部では、有形固定資産が 1,144 百万円の増加、投資その他の資産が 279 百万円の減少、流動資産の基金が 54 百万円の減少となりました。その結果、資産合計は 801 百万円の増加となりました。

負債の部では、地方債と 1 年内償還予定地方債がそれぞれ 188 百万円の増加、6 百万円の増加となり、退職手当引当金が 21 百万円の減少となりました。その結果、負債合計は 178 百万円の増加となりました。

純資産の部では、純資産合計が 624 百万円の増加となりました。

④ 経年比較(有形固定資産)

貸借対照表の資産の部の大半をしめる有形固定資産について、経年比較を下記に表示します。

有形固定資産の経年比較

(単位:百万円)

| | 令和元年度 | 平成30年度 | 増減 | 増減の内訳 | | |
|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|
| | | | | 新規取得等 | 減価償却 | その他 |
| 有形固定資産 | 10,119 | 8,975 | 1,144 | 1,895 | △ 458 | △ 293 |
| 事業用資産 | 7,542 | 6,756 | 786 | 1,398 | △ 354 | △ 258 |
| 土地 | 403 | 398 | 5 | 6 | - | 0 |
| 立木竹 | 496 | 496 | - | - | - | - |
| 建物 | 6,125 | 5,104 | 1,021 | 1,335 | △ 303 | △ 12 |
| 工作物 | 460 | 512 | △ 51 | - | △ 51 | - |
| 船舶 | - | - | - | - | - | - |
| 浮標等 | - | - | - | - | - | - |
| 航空機 | - | - | - | - | - | - |
| その他 | - | - | - | - | - | - |
| 建設仮勘定 | 58 | 246 | △ 188 | 58 | - | △ 246 |
| インフラ資産 | 2,481 | 2,131 | 350 | 445 | △ 85 | △ 10 |
| 土地 | 7 | 4 | 3 | 3 | - | 0 |
| 建物 | 22 | 24 | △ 1 | - | △ 1 | - |
| 工作物 | 2,451 | 2,093 | 358 | 442 | △ 84 | 0 |
| その他 | - | - | - | - | - | - |
| 建設仮勘定 | - | 10 | △ 10 | - | - | △ 10 |
| 物品 | 96 | 88 | 8 | 52 | △ 19 | △ 25 |

増減の内訳のうち、新規取得等をみると、金額の大きい方から、事業用資産の建物が1,335百万円、インフラ資産の工作物が442百万円となりました。事業用資産の建物の金額が大きいのは、菜の花にこにこセンター建設工事、町営住宅イタヤノ木団地建築工事を行ったためです。インフラ資産の工作物の金額が最も大きいのは、百目木漁港の防波堤整備や、源氏ヶ浦漁港機能整備工事があったためです。

減少項目である減価償却をみると、金額の大きい方から、事業用資産の建物が303百万円、インフラ資産の工作物が84百万円、事業用資産の工作物が51百万円、物品が19百万円となりました。

⑤ 住民一人あたり

貸借対照表では、団体の人口規模等により単純な他団体比較は困難ですが、各項目の金額を住民一人あたりで算出することにより、他団体との比較がしやすくなります。また、住民が実感を持てる数値となり、わかりやすい情報になるという効果もあります。

貸借対照表の各項目を住民基本台帳人口(令和2年4月1日)の4,412人で除したものを下記に表示します。

住民一人あたりの一般会計等貸借対照表 (令和2年3月31日現在 単位:千円)

| | | | |
|-------------|--------------|-----------------|--------------|
| 固定資産 | 2,588 | 固定負債 | 899 |
| 有形固定資産 | 2,294 | 地方債 | 777 |
| 無形固定資産 | - | 退職手当引当金 | 122 |
| 投資その他の資産 | 295 | その他 | - |
| 流動資産 | 344 | 流動負債 | 82 |
| 現金預金 | 15 | 1年内償還予定地方債 | 72 |
| 基金 | 327 | 賞与等引当金 | 9 |
| 未収金等 | 2 | その他 | 1 |
| | | 負債合計 | 981 |
| | | 純資産合計 | 1,952 |
| 資産合計 | 2,932 | 負債・純資産合計 | 2,932 |

住民一人あたりの資産合計は293万2千円、負債合計は98万1千円、純資産合計は195万2千円となりました。

(2) 行政コスト計算書

① 概要

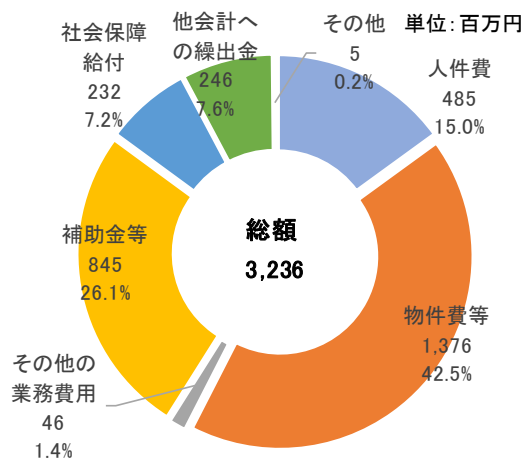
一般会計等行政コスト計算書

(自平成31年4月1日 至令和2年3月31日 単位:百万円)

| | | | |
|-----------------------|-----------------|--------------|--------|
| | 経常費用 | 3,236 | 100.0% |
| 人にかかるコスト | 業務費用 | 1,907 | 58.9% |
| | 人件費 | 485 | 15.0% |
| 物にかかるコスト | 物件費等 | 1,376 | 42.5% |
| | その他の業務費用 | 46 | 1.4% |
| 町民や他団体等の支出に対する給付・補助など | 移転費用 | 1,328 | 41.0% |
| | 補助金等 | 845 | 26.1% |
| | 社会保障給付 | 232 | 7.2% |
| | 他会計への繰出金 | 246 | 7.6% |
| | その他 | 5 | 0.2% |
| | 経常収益 | 146 | 100.0% |
| | 使用料及び手数料 | 68 | 46.6% |
| | その他 | 78 | 53.4% |
| | 純経常行政コスト | 3,090 | |
| | 臨時損失 | 25 | |
| | 臨時利益 | 11 | |
| | 純行政コスト | 3,103 | |

令和元年度決算では、経常費用が 3,236 百万円、経常収益が 146 百万円、純経常行政コストが 3,090 百万円となり、さらに、臨時損益を加えた結果、純行政コストは 3,103 百万円となりました。

経常費用の内訳をみると、経常費用総額 3,236 百万円のうち、最も金額が大きいのは物件費等で 1,376 百万円、次いで補助金等が 845 百万円、人件費が 485 百万円となりました。



② 住民一人あたり

行政コスト計算書では、団体の人口規模等により単純な他団体比較は困難ですが、各項目の金額を住民一人あたりで算出することにより、他団体との比較がしやすくなります。また、住民が実感を持てる数値となり、わかりやすい情報になるという効果もあります。

行政コスト計算書の各項目を住民基本台帳人口(令和2年4月1日)の4,412人で除したものを下記に表示します。

住民一人あたりの一般会計等行政コスト計算書

(自平成31年4月1日 至令和2年3月31日 単位:千円)

| | |
|-----------------|------------|
| 経常費用 | 733 |
| 業務費用 | 432 |
| 人件費 | 110 |
| 物件費等 | 312 |
| その他の業務費用 | 10 |
| 移転費用 | 301 |
| 補助金等 | 192 |
| 社会保障給付 | 53 |
| 他会計への繰出金 | 56 |
| その他 | 1 |
| 経常収益 | 33 |
| 使用料及び手数料 | 15 |
| その他 | 18 |
| 純経常行政コスト | 700 |
| 臨時損失 | 6 |
| 臨時利益 | 2 |
| 純行政コスト | 703 |

住民一人あたりの経常費用は73万3千円、経常収益は3万3千円、純経常行政コストは70万円となり、さらに、臨時損益を加えた結果、純行政コストは70万3千円となりました。

(3) 純資産変動計算書

一般会計等純資産変動計算書

(自平成31年4月1日 至令和2年3月31日 単位:百万円)

| | |
|----------------|---------|
| 前年度末純資産残高 | 7,987 |
| 純行政コスト(△) | △ 3,103 |
| 財源 | 3,727 |
| 税金等 | 2,128 |
| 国県等補助金 | 1,599 |
| 本年度差額 | 624 |
| 固定資産等の変動(内部変動) | - |
| 資産評価差額 | - |
| 無償所管換等 | 0 |
| その他 | 0 |
| 本年度純資産変動額 | 624 |
| 本年度末純資産残高 | 8,611 |

資産形成への
財源の充当状
況

有価証券等
の評価差額

無償で譲渡ま
たは取得した
固定資産の評
価額等

固定資産等の変動(内部変動)の内訳

| | 固定資産等形成分 | 余剰分(不足分) |
|----------------|----------|----------|
| 固定資産等の変動(内部変動) | 811 | △ 811 |
| 有形固定資産等の増加 | 1,896 | △ 1,896 |
| 有形固定資産等の減少 | △ 751 | 751 |
| 貸付金・基金等の増加 | 132 | △ 132 |
| 貸付金・基金等の減少 | △ 465 | 465 |

令和元年度決算では、純行政コストが△3,103百万円、税金等が2,128百万円、国県等補助金が1,599百万円、本年度純資産変動額が624百万円となった結果、本年度純資産残高が8,611百万円となりました。

固定資産等の変動(内部変動)の内訳では、有形固定資産の新規取得等に伴う内部変動として固定資産等形成分が1,896百万円の増加、有形固定資産の減価償却等の減少に伴う内部変動として固定資産等形成分が751百万円の減少となりました。

科目用語

「有形固定資産等の増加」…有形固定資産及び無形固定資産の形成による保有資産の増加額又は有形固定資産及び無形固定資産の形成のために支出した金額。

「有形固定資産等の減少」…有形固定資産及び無形固定資産の減価償却費相当額及び除売却による減少額又は有形固定資産及び無形固定資産の売却収入、除却相当額及び自己金融効果を伴う減価償却費相当額。

「貸付金・基金等の増加」…貸付金・基金等の形成による保有資産の増加額又は新たな貸付金・基金等のために支出した金額。

「貸付金・基金等の減少」…貸付金の償還及び基金の取崩等による減少額又は貸付金の償還収入及び基金の取崩収入相当額。

(4) 資金収支計算書

一般会計等資金収支計算書

(自平成31年4月1日 至令和2年3月31日 単位:百万円)

| | |
|---------------|--------------|
| 業務支出 | 2,791 |
| 業務費用支出 | 1,463 |
| 移転費用支出 | 1,328 |
| 業務収入 | 2,843 |
| 税込等収入 | 2,126 |
| 国県等補助金収入 | 571 |
| 使用料及び手数料収入 | 68 |
| その他の収入 | 77 |
| 臨時支出 | - |
| 臨時収入 | - |
| 業務活動収支 | 52 |
| 投資活動支出 | 1,716 |
| 公共施設等整備費支出 | 1,614 |
| 基金積立金支出 | 89 |
| その他の投資活動支出 | 12 |
| 投資活動収入 | 1,461 |
| 国県等補助金収入 | 1,029 |
| 基金取崩収入 | 409 |
| その他の投資活動収入 | 23 |
| 投資活動収支 | △ 255 |

| | |
|-----------------|------------|
| 財務活動支出 | 313 |
| 地方債償還支出 | 313 |
| その他の支出 | - |
| 財務活動収入 | 507 |
| 地方債発行収入 | 507 |
| その他の収入 | - |
| 財務活動収支 | 194 |
| 本年度資金収支額 | △ 9 |
| 前年度末資金残高 | 72 |
| 本年度末資金残高 | 63 |

地方債等の資金の調達及びその償還に関するもの

一会計期間における町の業務の提供に関するもの

| | |
|--------------------|-----------|
| 前年度末歳計外現金残高 | 4 |
| 本年度歳計外現金増減額 | 0 |
| 本年度末歳計外現金残高 | 4 |
| 本年度末現金預金残高 | 67 |

※歳計外現金…職員の給与に係る預り源泉税や公営住宅の預り敷金等

一会計期間における町の固定資産・貸付金・出資金等・基金の収支に関するもの

令和元年度決算では、業務活動収支が 52 百万円、投資活動収支が△255 百万円、財務活動収支が 194 百万円となり、本年度資金収支差額は△9 百万円となりました。その結果、本年度末資金残高は 63 百万円となり、さらに、歳計外現金を加えた本年度末現金預金残高は、67 百万円となりました。

3. 全体会計及び連結会計財務書類

(1) 貸借対照表

① 概要

一般会計等、全体、連結貸借対照表

(令和2年3月31日現在 単位:百万円)

| | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
|-----------------|---------------|---------------|---------------|
| 【資産の部】 | | | |
| 固定資産 | 11,419 | 12,292 | 13,116 |
| 有形固定資産 | 10,119 | 10,885 | 11,594 |
| 無形固定資産 | - | - | 2 |
| 投資その他の資産 | 1,300 | 1,407 | 1,519 |
| 流動資産 | 1,518 | 1,947 | 2,169 |
| 現金預金 | 67 | 354 | 488 |
| 基金 | 1,444 | 1,556 | 1,580 |
| 未収金等 | 7 | 37 | 101 |
| 繰延資産 | - | - | 0 |
| 資産合計 | 12,937 | 14,239 | 15,285 |
| 【負債の部】 | | | |
| 固定負債 | 3,965 | 4,332 | 4,929 |
| 地方債等 | 3,427 | 3,583 | 3,705 |
| 退職手当引当金 | 538 | 582 | 914 |
| その他 | - | 167 | 311 |
| 流動負債 | 361 | 397 | 622 |
| 1年内償還予定地方債等 | 319 | 343 | 453 |
| 賞与等引当金 | 38 | 43 | 82 |
| その他 | 4 | 11 | 87 |
| 負債合計 | 4,326 | 4,729 | 5,552 |
| 純資産合計 | 8,611 | 9,510 | 9,733 |
| 負債・純資産合計 | 12,937 | 14,239 | 15,285 |

貸借対照表を一般会計等と全体会計及び連結会計と比較すると、資産合計では、一般会計等が 12,937 百万円、全体会計が 14,239 百万円、連結会計が 15,285 百万円となりました。特に、有形固定資産をみると、全体会計が 10,885 百万円で一般会計等の 10,119 百万円と比べて 766 百万円大きくなっています。これは、全体会計では横浜町水道事業会計、百目木地区農業集落排水事業特別会計で有形固定資産を有しているためです。

負債合計では、一般会計等が 4,326 百万円、全体会計が 4,729 百万円、連結会計が 5,552 百万円となりました。特に、地方債等合計(地方債等及び 1 年内償還予定地方債等)をみると、全体会計が 3,926 百万円で一般会計等の 3,746 百万円と比べて 180 百万円大きくなっています。これは、全体会計では百目木地区農業集落排水事業特別会計、横浜町水道事業会計で地方債等を有しているためです。

純資産合計では、一般会計等が 8,611 百万円、全体会計が 9,510 百万円、連結会計が 9,733 百万円となりました。

② 住民一人あたり

住民一人あたりの一般会計等、全体、連結貸借対照表

(令和2年3月31日現在 単位:千円)

| | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
|-----------------|--------------|--------------|--------------|
| 固定資産 | 2,588 | 2,786 | 2,973 |
| 有形固定資産 | 2,294 | 2,467 | 2,628 |
| 無形固定資産 | - | - | 1 |
| 投資その他の資産 | 295 | 319 | 344 |
| 流動資産 | 344 | 441 | 492 |
| 現金預金 | 15 | 80 | 111 |
| 基金 | 327 | 353 | 358 |
| 未収金等 | 2 | 8 | 23 |
| 繰延資産 | - | - | 0 |
| 資産合計 | 2,932 | 3,227 | 3,464 |
| 固定負債 | 899 | 982 | 1,117 |
| 地方債 | 777 | 812 | 840 |
| 退職手当引当金 | 122 | 132 | 207 |
| その他 | - | 38 | 70 |
| 流動負債 | 82 | 90 | 141 |
| 1年内償還予定地方債 | 72 | 78 | 103 |
| 賞与等引当金 | 9 | 10 | 19 |
| その他 | 1 | 3 | 20 |
| 負債合計 | 981 | 1,072 | 1,258 |
| 純資産合計 | 1,952 | 2,156 | 2,206 |
| 負債・純資産合計 | 2,932 | 3,227 | 3,464 |

住民一人あたりの貸借対照表を一般会計等と全体会計及び連結会計で比較すると、資産合計では、一般会計等が293万2千円、全体会計が322万7千円、連結会計が346万4千円となりました。

負債合計では、一般会計等が98万1千円、全体会計が107万2千円、連結会計が125万8千円となり、純資産合計では、一般会計等が195万2千円、全体会計が215万6千円、連結会計が220万6千円となりました。

(2) 行政コスト計算書

① 概要

一般会計等、全体、連結行政コスト計算書 (自平成31年4月1日 至令和2年3月31日 単位:百万円)

| | 一般会計等 | 構成比 | 全体 | 構成比 | 連結 | 構成比 |
|-----------------|--------------|--------|--------------|--------|--------------|--------|
| 経常費用 | 3,236 | 100.0% | 4,464 | 100.0% | 6,044 | 100.0% |
| 業務費用 | 1,907 | 58.9% | 2,126 | 47.6% | 3,237 | 53.6% |
| 人件費 | 485 | 15.0% | 531 | 11.9% | 1,173 | 19.4% |
| 物件費等 | 1,376 | 42.5% | 1,507 | 33.8% | 1,922 | 31.8% |
| その他の業務費用 | 46 | 1.4% | 88 | 2.0% | 142 | 2.3% |
| 移転費用 | 1,328 | 41.0% | 2,338 | 52.4% | 2,806 | 46.4% |
| 補助金等 | 845 | 26.1% | 2,100 | 47.0% | 1,581 | 26.2% |
| 社会保障給付 | 232 | 7.2% | 233 | 5.2% | 1,220 | 20.2% |
| 他会計への繰出金 | 246 | 7.6% | - | - | - | - |
| その他 | 5 | 0.2% | 5 | 0.1% | 5 | 0.1% |
| 経常収益 | 146 | 100.0% | 231 | 100.0% | 732 | 100.0% |
| 使用料及び手数料 | 68 | 46.6% | 144 | 62.3% | 468 | 63.9% |
| その他 | 78 | 53.4% | 87 | 37.7% | 263 | 35.9% |
| 純経常行政コスト | 3,090 | | 4,233 | | 5,312 | |
| 臨時損失 | 25 | | 25 | | 12 | |
| 臨時利益 | 11 | | 11 | | 16 | |
| 純行政コスト | 3,103 | | 4,246 | | 5,308 | |

行政コスト計算書を一般会計等、全体会計及び連結会計と比較すると、経常費用では、一般会計等が 3,236 百万円、全体会計が 4,464 百万円、連結会計が 6,044 百万円となりました。特に、移転費用をみると、全体会計では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計(保険事業勘定)で費用を計上しているため、一般会計等に比べて 1,010 百万円大きくなっています。

経常収益では、一般会計等が 146 百万円、全体会計が 231 百万円、連結会計が 732 万円となっています。全体会計が一般会計と比べて大きくなっているのは、横浜町水道事業会計の収益が計上されているため、一般会計等に比べて 85 百万円大きくなっています。

純行政コストでは、一般会計等が 3,103 百万円、全体会計が 4,246 百万円、連結会計が 5,308 百万円となりました。

② 住民一人あたり

住民一人あたりの一般会計等、全体、連結行政コスト計算書

(自平成31年4月1日 至令和2年3月31日 単位:千円)

| | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
|-----------------|------------|------------|--------------|
| 経常費用 | 733 | 1,012 | 1,370 |
| 業務費用 | 432 | 482 | 734 |
| 人件費 | 110 | 120 | 266 |
| 物件費等 | 312 | 342 | 436 |
| その他の業務費用 | 10 | 20 | 32 |
| 移転費用 | 301 | 530 | 636 |
| 補助金等 | 192 | 476 | 358 |
| 社会保障給付 | 53 | 53 | 277 |
| 他会計への繰出金 | 56 | - | - |
| その他 | 1 | 1 | 1 |
| 経常収益 | 33 | 52 | 166 |
| 使用料及び手数料 | 15 | 33 | 106 |
| その他 | 18 | 20 | 60 |
| 純経常行政コスト | 700 | 959 | 1,204 |
| 臨時損失 | 6 | 6 | 3 |
| 臨時利益 | 2 | 2 | 4 |
| 純行政コスト | 703 | 962 | 1,203 |

住民一人あたりの行政コスト計算書を一般会計等と全体会計及び連結会計で比較すると、経常費用では、一般会計等が73万3千円、全体会計が101万2千円、連結会計が137万円となり、経常収益では、一般会計等が3万3千円、全体会計が5万2千円、連結会計が16万6千円となりました。

純行政コストでは、一般会計等が70万3千円、全体会計が96万2千円、連結会計が120万3千円となりました。

(3) 純資産変動計算書

一般会計等、全体、連結純資産変動計算書

(自平成31年4月1日 至令和2年3月31日 単位:百万円)

| | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
|------------------|--------------|--------------|--------------|
| 前年度末純資産残高 | 7,987 | 8,924 | 9,216 |
| 純行政コスト(△) | △ 3,103 | △ 4,246 | △ 5,308 |
| 財源 | 3,727 | 4,876 | 5,866 |
| 税収等 | 2,128 | 2,592 | 3,097 |
| 国県等補助金 | 1,599 | 2,284 | 2,769 |
| 本年度差額 | 624 | 629 | 558 |
| 固定資産等の変動(内部変動) | - | - | - |
| 資産評価差額 | - | - | - |
| 無償所管換等 | 0 | 0 | 0 |
| 他団体出資等分の増加 | - | - | - |
| 他団体出資等分の減少 | - | - | - |
| 比例連結割合変更に伴う差額 | - | - | 1 |
| その他 | 0 | △ 42 | △ 42 |
| 本年度純資産変動額 | 624 | 587 | 517 |
| 本年度末純資産残高 | 8,611 | 9,510 | 9,733 |

純資産変動計算書を一般会計等、全体会計及び連結会計で比較すると、税収等では、一般会計等が 2,128 百万円、全体会計が 2,592 百万円、連結会計が 3,097 百万円となりました。全体会計が一般会計と比べて大きくなっているのは、国民健康保険特別会計で国民健康保険料等、介護保険特別会計(保険事業勘定)で介護保険料等が計上されているためです。また、連結会計が全体会計と比べて大きくなっているのは、北部上北広域事務組合、青森県後期高齢者医療広域連合等の一部事務組合・広域連合を連結したためです。

本年度末純資産残高では、一般会計等が 8,611 百万円、全体会計が 9,510 百万円、連結会計が 9,733 百万円となりました。

(4) 資金収支計算書

一般会計等、全体、連結資金収支計算書

(自平成31年4月1日 至令和2年3月31日 単位:百万円)

| | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
|--------------------|--------------|--------------|--------------|
| 業務支出 | 2,791 | 3,976 | 5,393 |
| 業務費用支出 | 1,463 | 1,639 | 2,587 |
| 移転費用支出 | 1,328 | 2,338 | 2,806 |
| 業務収入 | 2,843 | 4,068 | 5,537 |
| 税込等収入 | 2,126 | 2,570 | 3,064 |
| 国県等補助金収入 | 571 | 1,255 | 1,721 |
| 使用料及び手数料収入 | 68 | 160 | 488 |
| その他の収入 | 77 | 83 | 263 |
| 臨時支出 | - | - | - |
| 臨時収入 | - | - | 0 |
| 業務活動収支 | 52 | 92 | 144 |
| 投資活動支出 | 1,716 | 1,824 | 1,917 |
| 公共施設等整備費支出 | 1,614 | 1,614 | 1,673 |
| 基金積立金支出 | 89 | 197 | 231 |
| その他の投資活動支出 | 12 | 12 | 13 |
| 投資活動収入 | 1,461 | 1,484 | 1,553 |
| 国県等補助金収入 | 1,029 | 1,029 | 1,048 |
| 基金取崩収入 | 409 | 432 | 474 |
| その他の投資活動収入 | 23 | 23 | 31 |
| 投資活動収支 | △ 255 | △ 340 | △ 365 |
| 財務活動支出 | 313 | 331 | 435 |
| 地方債償還支出 | 313 | 331 | 426 |
| その他の支出 | - | - | 9 |
| 財務活動収入 | 507 | 514 | 606 |
| 地方債発行収入 | 507 | 514 | 606 |
| その他の収入 | - | - | 0 |
| 財務活動収支 | 194 | 183 | 171 |
| 本年度資金収支額 | △ 9 | △ 66 | △ 50 |
| 前年度末資金残高 | 72 | 416 | 527 |
| 比例連結割合変更に伴う差額 | - | - | 0 |
| 本年度末資金残高 | 63 | 350 | 477 |
| 前年度末歳計外現金残高 | 4 | 4 | 8 |
| 本年度歳計外現金増減額 | 0 | 0 | 3 |
| 本年度末歳計外現金残高 | 4 | 4 | 10 |
| 本年度末現金預金残高 | 67 | 354 | 488 |

資金収支計算書を一般会計等、全体会計及び連結会計で比較すると、本年度資金収支額では、一般会計等が△9百万円、全体会計が△66百万円、連結会計が△50百万円となり、本年度末現金預金残高では、一般会計等が67百万円、全体会計が354百万円、連結会計が488百万円となりました。

4. 財務書類の活用

(1) 財務書類を用いた分析

財務書類を用いた活用方法として、財政指標の分析があります。世代間公平性や持続可能性等といった様々な視点により、財務書類を分析し、問題点を明らかにします。また、これらは経年比較や他団体比較をすることでよりの確な財務分析が可能となります。

県内平均の数値については、総務省より公表している「統一的な基準による財務書類に関する情報(各種指標)」から、青森県内の町村 22 団体の平均としております。

資産形成度

| | H30 | R1 | 県内平均 |
|--|---------|---------|---------|
| 住民一人当たり資産額 資産額を住民基本台帳人口で除したものです。 計算式: 資産合計÷人口 | 2,688千円 | 2,932千円 | 3,082千円 |
| 歳入額対資産比率 これまでに形成されたストックとしての資産が、歳入の何年分に相当するかを表したものです。 計算式: 資産合計÷(収入総額+前年度末資金残高) | 2.8年 | 2.6年 | 3.4年 |
| 有形固定資産減価償却率 有形固定資産の償却資産のうち、耐用年数に対し、どの程度期間が経過しているかを表したものです。比率が高いほど、老朽化が進行していることを意味します。 計算式: 減価償却累計額÷有形固定資産取得価額(償却資産) | 70.4% | 67.5% | 63.6% |

世代間公平性

| | | | 県内平均 |
|--|-------|-------|-------|
| 純資産比率 純資産合計を資産合計で除したものです。 計算式: 純資産合計÷資産合計 | 65.8% | 66.6% | 65.1% |
| 社会資本等形成の世代間負担比率 社会資本等について、将来の償還等が必要な負債による形成割合を表したものです。 計算式: (地方債+1年内償還予定地方債)÷有形固定資産 | 39.6% | 37.0% | 22.3% |

持続可能性(健全性)

| | | | 県内平均 |
|---|-------------|-------------|-----------|
| 住民一人当たり負債額 負債額を住民基本台帳人口で除したものです。 計算式: 負債合計÷人口 | 919千円 | 981千円 | 899千円 |
| 基礎的財政収支(プライマリーバランス) 地方債等の元利償還額を除いた歳出と、地方債等発行収入を除いた歳入のバランスを表しています。 計算式: 業務活動収支(支払利息支出を除く)+投資活動収支 | △ 349,179千円 | △ 503,857千円 | 123,400千円 |
| 地方債償還可能年数 地方債が償還財源上限額の何年分あるかを表しています。地方債償還能力は、地方債償還可能年数が短いほど高いといえます。 計算式: (地方債+1年内償還予定地方債)÷業務活動収支(臨時収支分を除く) | 75.1年 | 71.8年 | 0.0年 |

効率性

| | | | 県内平均 |
|--|-------|-------|-------|
| 住民一人当たり行政コスト 行政コストを住民基本台帳人口で除したものです。 計算式: 純行政コスト÷人口 | 738千円 | 703千円 | 703千円 |

弾力性

行政コスト対税収等比率

税収等の一般財源のうち、どれだけ資産形成を伴わない行政コストに費消されたのかを表したものです。

計算式：純経常行政コスト÷(税収等+国県等補助金)

| | | 県内平均 |
|-------|-------|------|
| 94.7% | 82.9% | 0.0% |

自律性

受益者負担の割合

行政サービスに対する使用料・手数料等の受益者負担の割合を表したものです。

計算式：経常収益÷経常費用

| | | 県内平均 |
|------|------|------|
| 4.8% | 4.5% | 3.5% |

| | | |
|---|---|--|
| <p>1. 資産の状況 住民一人当たりの資産額は、県内平均を下回っております。ただ前年度より大きく増加しております。これは、事業用資産の建物取得、インフラ資産の工作物取得したためです。有形固定資産減価償却率は、年々上昇しておりますが、新規有形固定資産取得に伴い、前年度より減少しました。いずれも7割近い水準であり、老朽化施設の再編等を計画する必要があります。</p> | <p>2. 資産と負債の比率 純資産比率は、県内平均と同じ水準であります。社会資本等形成の世代間負担率は、県内平均を大きく上回っております。地方債の償還、負債の支出により、将来の財政が圧迫する可能性があります。また、有形固定資産の老朽化も考えれば負担は大きくなると言えます。</p> | <p>3. 行政コストの状況 住民一人当たりの純行政コストは、県内平均と同じ水準であります。経常費用の内、移転費用の補助金等支出、他会計への繰出金支出の減少に伴い、前年度より減少しました。また、横浜小学校、給食センター等の事業用資産(建物)の除却損を前年度は計上しているためです。</p> |
| <p>4. 負債の状況 住民一人当たりの負債額は、県内平均を上回っております。また、地方債の発行に伴い、前年度より増加しました。基礎的財政収支は、県内平均を大きく下回っております。公共施設整備に税収、国県等補助金、地方債では賅えず、事業基金を取り崩したことに伴い、前年度より大幅に減少しました。</p> | <p>5. 受益者負担の状況 受益者負担は、県内平均を上回っております。経常費用で、物件費、減価償却費、補助金等の支出が割合を占めております。前年度より減少しておりますが、今後も割合の低減を図っていく必要があります。</p> | |

(2) 固定資産台帳を用いた分析

固定資産台帳を用いた活用方法として、有形固定資産減価償却率の算出があります。有形固定資産減価償却率は、有形固定資産のうち、償却資産の取得価額に対する減価償却累計額の割合、すなわち資産の経年の程度を示す指標であり、資産の老朽化を表すものです。

① 補助科目別

補助科目別の有形固定資産減価償却率

(単位:千円)

| 補助科目 | 取得価額 | 減価償却累計額 | 比率 |
|--------------|-------------------|-------------------|----------------|
| 建物 | 12,659,244 | 7,319,772 | 57.82 % |
| 建物付属設備 | 1,142,829 | 357,594 | 31.29 % |
| 工作物 | 779,155 | 318,678 | 40.90 % |
| 公園(公共建物) | 60,290 | 37,828 | 62.74 % |
| 橋梁(公共工作物) | 1,013,709 | 714,562 | 70.49 % |
| 道路(公共工作物) | 8,999,931 | 8,773,477 | 97.48 % |
| 漁港・港湾(公共工作物) | 2,139,130 | 401,028 | 18.75 % |
| 公園(公共工作物) | 64,919 | 36,245 | 55.83 % |
| 下水道(公共工作物) | 260,824 | 115,123 | 44.14 % |
| 防火水槽(公共工作物) | 246,556 | 242,537 | 98.37 % |
| その他(公共工作物) | 151,577 | 142,589 | 94.07 % |
| 物品 | 620,290 | 524,427 | 84.55 % |
| 合計 | 28,138,454 | 18,983,861 | 67.47 % |

② 行政目的別

行政目的別の有形固定資産減価償却率

単位:千円

| 行政目的 | 取得価額 | 減価償却累計額 | 有形固定資産減価償却率 |
|-------------|-------------------|-------------------|--------------|
| 生活インフラ・国土保全 | 13,797,226 | 11,171,320 | 81.0% |
| 教育 | 7,112,774 | 3,624,107 | 51.0% |
| 福祉 | 1,787,687 | 1,050,038 | 58.7% |
| 環境衛生 | 1,692,602 | 438,996 | 25.9% |
| 産業振興 | 1,539,337 | 1,061,995 | 69.0% |
| 警察 | 1,077,093 | 743,349 | 69.0% |
| 消防 | 606,675 | 567,471 | 93.5% |
| 総務 | 525,060 | 326,585 | 62.2% |
| 町全体 | 28,138,454 | 18,983,861 | 67.5% |